

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第 6 号

令和4年 12月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

11月 2日(水)

提案 能登 清仁 先生(阿久和小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 小森 竜也 先生(汐見台小)

記録 赤岡 鉄矢 先生(みなとみらい本町小)

1 提案内容 単元名

単元名「横浜市のうつりかわり～阿久和団地から見る横浜～」

2 提案者より

本時まで、人口・交通・公共施設・土地の使われ方について調べて年表を作成する。付箋を使って阿久和や瀬谷の歴史に触れながら調べる。人口が増えると市が広がっていくことを考えていく。歴史の移り変わりを見ながらそれまでの学習を振り返り、本時につなげていきたい。本時では、新しい団地と昔からある団地を比較しながら住みやすい団地づくりを進めていることや市の発展とつなげていきたい。

視点①

○単元構想について

- ・本時で提示する資料「健康団地推進計画」でなぜ人口が減っているのに団地を創るのかを考えさせたい⇒情報量が多く、子どもにとっては難しい資料。人口に注目できるように工夫するとよいのでは。
- ・団地の状況をどこで捉えていくか⇒土地利用のところや全単元のインタビュー、総合の授業で阿久和団地に住んでいる方から昔の話を聞いて捉えていきたい。

視点②

○協働的な学びに向けて

- ・本時の学習問題で、新しい団地は何を目指しているのか、何が新しいのかなど子どもが考えて見つけるものを明らかにする必要がある。
- ・そもそも、高齢者に優しいことは良いことだけれど、それが魅力と言えるのか、阿久和のまちの人口が減っているからだけではなく、子育て世代に入ってほしいや外国人の方など、誰にでも住みやすいまちを目指している。
- ・どうして新しい団地が作られているかを考えるための資料はどうするか⇒行政の計画的なところが大きいのではないかと。昔からの団地は空き家が増えているが、新しい団地は空き家が無いなど調べながら理由を見つけさせたいが、答えがあることならそれを考えるための分かりやすい資料を出すなどをした方がよいのでは。

<講師の先生より> 下野庭小学校 校長 黒木 英晴 先生

困ったときに助けてほしい時に行政に頼むのではなく、そういう時にはご近所さんに頼むのではないか。それは、今後の日本の課題でもある。住んでいる人たちは満足しているけれど、今後のことを考えると新しい入居者に来てもらわないと無くなってしまう。健康団地というハード面ではなく、気持ちのところが大切なのではないか。それをグラフとか絵とか写真とかを使って示していく。突き詰めれば、保険料、住民税などの行政の思惑もあると思うが、住人の思いが一番大切なのではないか。

文責 北沢 宏 (間門小学校)